

を語る 1

あづみの 安曇野市(長野県)

安曇野市長 宮澤宗弘 みやざわむねひろ

産業・地域・暮らしが 共に響き合う安曇野を目指して

はじめに

長野県のほぼ中央部に位置する安曇野市は平成17年10月1日、当時の豊科町・穂高町・三郷村・堀金村・明科町の5町村が合併して誕生しました。西部は燕岳、大天井岳、常念岳など海拔3000m級の山々が連なる北アルプスがそびえ、その山々を源とする中房川、烏川、梓川、高瀬川が流れ込む犀川がある東部に向け、平たんな複合扇状地が広がります。

本年10月でようやく丸5年を迎える本市ですが、その名の由来は古く、6世紀後半に九州から移住してきたとされる海洋民族「安曇族」がその起りだといわれています。海が無い地域にもかかわらず、穂高神社の「御船祭り」に代表されるように、船形の山車をえい航する祭りが多く

残っているのも、その名残だといわれます。

また本市は、集落の守り神・五穀豊穡や子宝の神として知られる「道祖神」の宝庫で、市教育委員会のまとめによれば、その数は550体を超えます。道祖神にまつわる祭事も多く、奇祭として知られる「福俵曳き」や、元日の日の出と共に御柱を立てる「北小倉の御柱」など、特色ある祭事が地域に根差しています。

「田園産業都市」を目指して

本市豊科地域の前身である旧豊科町は、昭和27年に当時の長野県では町村として初めてとなる工場誘致条例を制定し、以来、製造品出荷額で県内1位を誇るまでに成長を遂げました。また、先人たちの努力と英知の積み重ねにより開かれた大地は、県内一の水稲収穫量を誇る。信

州の米どころとなり、本市の景観と人々の生活の礎を担っています。

本市では、これら農工業と生活機能がバランスよく配置された「田園産業都市」の形成を目指しているところですが、ここで重要な鍵の一つとなるのが、土地利用制度の統一です。

線引き制度や独自条例など、旧5町村で異なる方式を用いていた土地利用について、現在、早期の統一に向け検討を行っています。本市の景観や住環境を保全しつつ秩序をもって都市機能を集約し、産業についても継続的に発展が望める土地利用制度づくりを目指します。

平成の大合併にあって、5つの町村が対等な立場で新設合併した本市のケースは、全国でもまれな事例といえます。現在は、旧町村の役場庁舎を中心として8つの庁舎に市役

所機能が分散する、いわゆる「分庁方式」を採用しています。このような状況下で、市の業務を集約する本庁舎の建設は合併後の懸案事項であり、その必要性については検討委員会などで議論を重ねてきました。その上で、合併の目的でもある効率的な行政運営の実現、老朽化した旧役場庁舎に掛かるコストなどをかんがみ、本庁舎が必要であるとの方向が出されました。合併特例債の期限なども踏まえ、平成27年度早期の庁舎完成を目指し作業を進めています。

子どもは社会の宝 子育て支援策の拡充

少子高齢化の傾向は本市も例外ではありません。将来の発展を見据えた上でも、子育て環境の整備は重要課題の一つであります。社会の宝である子どもたちを取り巻く環境を整えることで、次世代の担い手が育ち、ひいてはそれが地域の発展につながると考えます。そこで、平成21年10

共に響き合える安曇野づくり

私はこれまで「共に響き合える安曇野づくり」を合言葉に掲げ、数々の政策に取り組んでまいりました。市民の暮らしと自然の営み、各種産業の調和が本市の魅力の一つといえます。今後もそれぞれの良さが響き合える地域づくりを目指し取り組んでまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 331・82km²
- ◆ 人口 9万9242人
- ◆ 世帯数 3万6820世帯

〔将来都市像〕北アルプスに育まれこころ輝く 田園都市 安曇野

〔まちの特徴〕水稲収穫量、製造品出荷額が共に長野県1位を誇り、豊かな自然と産業、人々の暮らしが共に息づく田園都市

〔市町村合併〕平成17年10月1日、豊科町、穂高町、三郷村、堀金村、明科町の5町村が新設合併

〔特産品〕ワサビ、ニジマス、信州そば、

穂高天蚕糸、信州りんご、タマネギ、凍り餅

〔観光〕わさび田、碓山美術館、田淵行男記念館、安曇野高橋節郎記念美術館、安曇野市豊科近代美術館、穂高温泉郷、長峰山、北アルプス登山、国営アルプスあづみの公園、旧国鉄篠ノ井線線路敷、あづみ野ガラス工房

〔イベント〕あづみの公園早春賦音楽祭、信州安曇野あやめまつり、あづみ野祭り、信州安曇野わさび祭り、安曇野花火、信州安曇野新能、穂高神社御船祭り、安曇野観光草競馬大会、アルプススカイグランプリ、安曇野フェスタ



船形の山車をえい航する穂高神社の「御船祭り」

信州DCとタイアップで 観光振興

工業と共に本市の産業を支える

月の市長就任以来、私が最優先事項として取り組んできたのが、子育て支援策の拡充です。近隣市町村に比べ割高感のあった保育料を見直し、これまで就学前乳幼児が対象だった医療費無料化についても、中学生までその枠を広げました。また、公立保育園の改修や小中学校の耐震化など、ハード面の整備も進めてきました。子育て世代は地域社会を支える「働く世代」でもあります。子育て支援の充実、働く世代にとっても精神的、物質的な安心とゆとりにつながるものと期待しています。

3年前に設置した安曇野ブランド推進室では、本市の魅力を全国へ発信するため、県内外に向けプロモーション活動を展開してきました。また、安曇野ブランドの創生を図るべく、地元の作家による工芸・芸術作品や地域行事と絡めた商店街イベントの開催など、地

安曇野ブランドの確立



安曇野市長 宮澤宗弘



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

ふるさとへの思いを紡ぐ まちづくり

はじめに

刈谷市は、地理的には愛知県のほぼ中央に位置し、歴史的には天文2年(1533年)に徳川家康の生母於大の方の父・水野忠政によって刈谷城が築城され、城下町として商業、農業を中心に繁栄してきました。明治21年には東海道本線が開通し、刈谷駅が設置され、大正3年には三河鉄道(現名鉄三河線)が開通するなど、交通の要衝として発展、地方商業都市的色彩を濃くしてまいりました。大正末期にトヨタ系企業の誘致により近代産業都市としての足掛かりを得るとともに、積極的な工業化施策を推進してきました。昭和25年、県下で11番目の市として産声を上げた本市は、本年、市制施行60周年を迎えました。

NEXT STAGE

(新たな始まり)

本市は、平成15年スタートの第6次総合計画の下で、刈谷ハイウェイオアシス(岩ヶ池公園)、フロー



刈谷ハイウェイオアシス

ラルガーデンよさみと依佐美送信所記念館、JR野田新町駅、ウィングアリーナ刈谷(新体育館)、刈谷駅南地区の再開発、総合文化センターなどの都市機能の充実に積極的に取り組んできました。本年、新保健センターの整備、刈谷駅北口広場の整備、新庁舎の整備も完了の見込みで、市民生活を支える都市機能の整備も一定の完了を見ることができると見込んでいます。

特に、伊勢湾岸自動車道の刈谷PAと一体的に整備した刈谷ハイウェイオアシスは、平成16年の開園以来多くの方に来場をいただき、今では東名高速道路の海老名SAに次ぐ集客力を誇り、本市の新しい名所となっています。また、本年4月3日にオープンしました総合文化センターは、1541席のホールを備え、刈谷駅に隣接し名



亀城公園整備事業(イメージパース)

の取り組みを基礎として、市民と共に育てるかりやづくりに努めてまいりたいと考えています。

ふるさとの誇りを育てる 歴史や文化への回帰

本市には、国の天然記念物「小堤西池のカキツバタ群落」に代表される自然があふれ、江戸時代から脈々と受け継がれる天下の奇祭「万燈祭」をはじめとする数々の伝統文化が残っています。また、昭和11年、豊田自動織機製作所において市販乗用車(トヨタAA型)を完成させたトヨタ自動車発祥の地でもあります。

こうした自然と文化、産業が調和した都市の活力と魅力を生かし、このまちにある歴史や文化を掘り起こし、ふるさとの誇りをはぐくむことが、これからのまちづくりには必要だと考えています。その一つとして、刈谷城の復元や歴史博物館の整備を進めています。城跡は亀城公園として整備されていますが、城跡の面影はなく、隅櫓、城門、石垣などの復元を進め、歴史博物館と共にまちのシンボルにしたいと考えています。



万燈祭り

おわりに

「やすらぎ」「いきがい」「うるおい」「いろいろ」「しんらい」。このキーワードを、市政経営の基本コンセプトとして各種施策を推進しています。

現在の厳しい社会経済状況の中では、「やすらぎ」「いきがい」を重点課題として、市民の安心感を大切にした施策を中心に取り組みを

行っています。一方で、市民生活を支えながら、「うるおい」「いろいろ」というまちの魅力や誇りづくり、「しんらい」という行政経営改革にも着実に取り組んでいます。

私のふるさとのまちが、輝ける地域であり続けられるよう、市民の皆さんと一緒に、かりやづくりに努めてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 50・45km²
- ◆ 人口 14万5245人
- ◆ 世帯数 6万140世帯

〔将来都市像〕人にやさしい快適産業文化都市

〔まちの特徴〕トヨタ系企業を中心とする堅調な産業基盤に支えられ、全国有数の財政力を誇り、歴史や自然にも恵まれ、市民福祉の充実した住みやすいまち

〔特産品〕スイカ、切干大根



刈谷市長
竹中良則



〔観光〕刈谷ハイウェイオアシス、小堤西池カキツバタ群落、ミササガパーク、フローラルガーデンよさみ

〔イベント〕桜まつり(亀城・洲原公園)、大名行列、万燈祭り、わんさか祭り、刈谷市民総踊り、KARIYA洲原音楽祭

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

市民みんなで創る 人・まち「元気」体感都市 門真

概要

門真市は大阪府の東北部に位置し、標高は低く平坦な地形のまちです。古代から豊かな穀倉地帯で、江戸時代には多くが天領となり水郷農村を形成していました。洪水から蔵を守るため石垣を積み上げた「段蔵」や、湿田の水路の水位調整と舟の通行を可能にする「バツタリ」がつくられ、米作り以外にもレンコン栽培が活発化し、



春の風物詩となっている「砂子水路」の桜

現在は「河内レンコン」の名で知られる特産品となっています。

昭和8年にはパナソニック株式会社の前身である松下電器製作所が立地し、道路整備と相まって下請け・関連工場が集積し始めました。昭和38年には単独市制を実施し、昭和40年の国勢調査では全国1位の人口増加率を示すなど、高度経済成長と共に飛躍的に人口が増加しました。

大阪市と隣接し、東西4.9km、南北4.3kmの域内に京阪電鉄をはじめ大阪市営地下鉄および大阪モノレールの3路線7カ所の駅があり、通勤や通学に便利な環境が整っています。また、本年3月には大阪と京都を結ぶ第二京阪道路が全線供用開始したことで、経済活動やまちの発展に大きな役割を果たすものと期待しています。

夢を現実にする計画

平成31年度までを計画期間とし、新しいまちづくりの指針となる「門真市第5次総合計画」を本年3月に策定しました。

市民と行政が新たな気持ちでチャレンジし、人(意識)が変わることとまちが発展し、まちが変わることにより人が繁栄するという「生成し発展していくしくみ(環)」をつくり上げることを目指し、本市の将来像を「人・まち「元気」体感都市 門真」と定めました。

策定にあたり市民と行政が共につくり共有する計画を基本とし、できるだけ多くの市民の意見を反映できるように、市民意識調査をはじめ、市民団体への取り組み調査、企業ヒアリングのほか、公募市民による「門真未来市民会議」、市内

の小学6年生を対象とした「門真の未来子ども会議」、総合計画原案に対するパブリックコメントの募集などを実施しました。

これらの取り組みに積極的な市民に参画をいただき「自らのまちづくりは自らで考え、自らの手でつくり上げる」という熱意を感じました。まさにこれからの時代が求める地域主権への足掛かりとして第一歩を踏み出したように思います。

しかし、前計画策定時の市民意識調査と比べて、本市に定住したい人の割合は増加しているものの、若い世代ほど将来的に移住を検討している割合が高いことが分かりました。今後は移住意向となるさまざまな要因を一つずつ解決し、市民がふるさととして「誇り」と「愛着」を持てるような定住都市へと転換を図らなければなりません。

そこで、本計画では協働を機軸に据え6つのまちづくりの基本目標を設定し、その中でも重点的に取り組む課題として「生きる力を育

てる」「オンリーワンのまちづくり」「持続可能な都市経営」の3つを掲げました。

1つ目の「生きる力を育てる」では、子ども自らが学び考える力を確実に身に付けるため、基礎的学力の向上や創造性・社会性を高める教育力を高めることが必要です。そこで、その具体策として、全小・中学校にデジタルテレビなどのICT機器を導入し、子どもたちの授業への興味や集中力を高める学力向上に役立てています。

また、教員の指導力向上を目的とした教育センターを開設し、若手教員の授業力向上、研修の充実を図るとともに、小学校に学力向上支援員を配置し、学校が主体的に授業改善ができるような工夫も



農業まつりで飛ぶように売れる「河内レンコン」

行いました。

さらに、放課後の学習習慣の定着を目的として、大学生や退職教員からなる学習支援アドバイザーによる「まなび舎」事業を推進し、土曜日には、中学校区単位で設立されている学校支援地域本部と連携して「かどま土曜自習室サタスタ」事業を全小・中学校で展開しています。

2つ目の「オンリーワンのまちづくり」では、門真にしかない特色ある魅力的な「まちの顔づくり」を進めていくため、本市公共施設で初のPFI手法による新統合中学校を平成24年4月の開校を目指して現在工事を進めており、自然通風換気システムなどの環境技術を取り入れたエコスクールの実現を目指します。

また、市役所周辺地区において木造老朽住宅などによる密集市街地を改善し、災害に強いまちづくりを行うとともに、環境に配慮した低炭素タウンの先導的モデルも視野に入れ、魅力あるまちに向けて取り組みます。

3つ目の「持続可能な都市経営」では、市民の目線を重視し、施策の達成度の点検、評価、改善を行う進行管理を含め、協働の理念の

下、あらゆる主体がまちづくりの担い手となり参画する都市経営マネジメントの仕組みをつくることで、より効果の高い施策を実行できるような選択と集中による市政の運営を行ってまいります。

「人」がまちをはぐくみ、「まち」が人をはぐくむ元気なまちを「体感」できる門真の実現に向け、次代を担う本市の子どもたちに「このまちに生まれて良かった」「これから住み続けたい」と思われるよう、将来を見据えたまちづくりに職員一丸となって積極的に取り組んでまいります。

最後に

- ◆ 面積 12・28km²
- ◆ 人口 13万1073人
- ◆ 世帯数 6万692世帯

プロフィール

〔将来都市像〕人・まち「元気」体感都市 門真

〔まちの特徴〕大阪府に隣接している立地条件もあり、鉄道や道路網が充実しており、大阪府内でも有数の交通利便性を持つ平坦でコンパクトなまち

〔特産品〕河内レンコン、家電製品



門真市長 園部一成



〔観光〕三島神社の薫蓋樟、砂子水路の桜並木、幣原兄弟記念碑、バツタリ(水位調整と舟の通行を可能にするための樋門)

〔イベント〕門真市文化祭、校区門真まつり、コーラスフェスティバル in KADOMA、門真市吹奏楽フェスティバル、守口・門真ジャズフェスティバル、ふれ愛・にぎわい! ラブリーフェスタ、わがまち門真市民ミュージカル

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「強い周南、やさしい周南、あこがれの周南」を目指して

はじめに

入道雲と照りつける夏の日差し。夏本番を迎えました。「朝ぼらけ すぎる宵猫 恋陽炎 打ち水まいて 風通る」(島津得雲)。

周南市は、瀬戸内海に面し、旧徳山市を中心に、2市2町が合併したまちです。人口約15・3万人、約6・7万世帯。東京23区、シンガポールとほぼ同じ面積。長大なコンテナポート群、県内一の製造品出荷額、全国23位。市内総生産は県内トップの9148億円。実に、県全体の16%を占めています。生い茂る山、清く豊かな水、豊穡の大地、恵みの海。産業、交通、自然、文化、伝統など、さまざまな資源に恵まれた潜在能力の高い、「県内ナンバーワンの都市」です。

本市を訪れた、アメリカの詩人、

アーサービナード氏は、徳山湾を「東洋のエーゲ海」とたたえました。「吉」に囲まれ、「幸」が組み込まれた「周南市」。いいまち、いいひと、いいくらし。私たちのまちを、そういう目で見て、感じて、思うことが大切で、志高く、確実に、着実に、誠実に、1・2・3の施策で、強い周南、やさしい周南、そしてあこがれの周南の実現に取り組みます。

大人虎変と同寅

本年は「寅年」です。そこで、2つの言葉を紹介します。まず1つは、「大人虎変」という言葉。中国の原典によると「大人は虎変し、小人は面を革む」とあり「大人は、虎の毛がきつぱり抜け変わるように、鮮やかに刷新し、小人は上つ面の変化でごまかす」とい

うことです。2つ目は「同寅」という言葉。仲間と手を携える、すなわち、ベクトルを1つにして、市民力と職員力、そして地域力でまちづくりをするということです。変化の激しい時代です。日々是新でないとしてもこの変化についていけません。本市のあるべき姿を刻々と追い求めて更新刷新することが大切です。

市職員に望む

1つ目は、「市民の目線」で考えるということです。市民の目線で同じ土俵。1・2・3の施策。同じベクトルで、微笑みをもって。2つ目は、「等しからざるを憂う」です。「吏道」すなわち市民の皆さまから期待される公務員を念頭に、市民の日々の暮らしを思



10万個のイルミネーション「周南冬のツリーまつり」

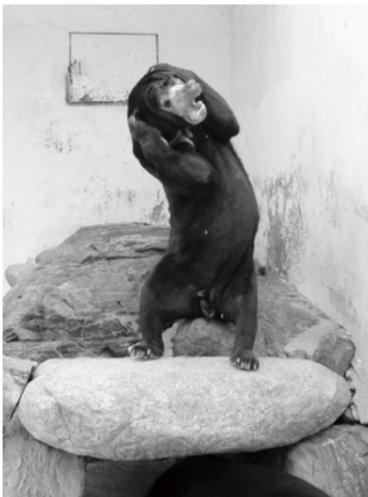
周南再生連鎖連動予算。

正々の御旗「すべては市民のために」の下で、新たな施策の展開に際しても、全職員で堂々の陣立て「変わり、変えて」の志を持ち、大いに奮闘してまいります。

振れず、恐れず、怯まず

さて、市長になって心掛けていくこと。それは、誰のための、何のための市長か常に自問自答することです。還暦すぎて、世間の悲哀とありがたみ、そして弱者の辛苦が少しは理解できるようになりました。

スピード感と金利感覚、「検討します」「できません」は禁句。安心・安全・いのち最優先。現地現場主義。土日が勝負、休みなし、新築よりリニューアル。周南百年の基軸、長寿日本一、腕白日本一、楽市楽



開園50周年を迎えた「周南市徳山動物園」

座、国際都市、観光立市、環境立市、産業立市、水資源戦略、日本の桃源郷。入るを量りて出ざるを制す。このように、自己に課した宿題は山のようにあります。「志を立て、以って万事の源となす」。吉田松陰先生は「士規七則」三端の最初で「志」がすべての源になると説かれています。私は、「振れず、恐れず、怯まず」、いかなる状況にあらうとも、「周南再生」にすべての精力を傾注してまいります。

動き出した周南再生

地方行政の環境は非常に厳しいものがあります。しかし、「厳しさ」なき自治体運営はありません。年末になれば、「激動の一年、大きく変化した一年」と恒例のように語られますが、そもそも「変わらない、動かない一年」などはありません。「変わる」「留まらない」は万物の摂理であり、現代はグローバル社会におけるさまざまな要因が輻輳して、激しく動くことで、日々が積み重ねられ、歴史が形成されていくのです。

「変わることを常とし、「変わることをいとわない柔軟な行動力が地方行政にますます求められてい

プロフィール

- ◆ 面積 656・32km²
- ◆ 人口 15万3158人
- ◆ 世帯数 6万7615世帯

〔将来都市像〕強い周南、やさしい周南、あこがれの周南

〔まちの特徴〕生い茂る山、清く豊かな水、豊穡の大地、恵みの海を有する国内でも有数の工業・港湾都市
〔市町村合併〕平成15年4月21日、徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町の2市2町が山口県で最初の合併を実現。新たに「周南市」が誕生した



周南市長 島津幸男



〔特産品〕杓島のトラフグ、SUGA NE徳山巨峰ワイン、都濃肥牛、夜市「ぼう・さ」といも、徳山みかげ石
〔観光〕周南市徳山動物園、徳山競艇場、湯野・三丘・呼鶴・石船温泉、漢陽寺、須金フルーツランド、八代のナベヅル
〔イベント〕花とワインフェスティバル、徳山港海上花火大会、周南冬のツリーまつり、永源山公園つつじ祭り、徳山駅前骨董市

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。